

大田区の身近な生物・植物についての区民協働調査

2021年度実施報告書

2022年3月

一般社団法人

地域パートナーシップ支援センター

1. 調査実施概要

1. 1 調査名称

大田区の身近な生物・植物についての区民協働調査

1. 2 調査目的

大田区内には、多数の特色のある公園等があり区民の身近に豊かな自然環境が存在している。この調査では、区内の公園等を中心とした生物相の状況を把握し、区民が自然観察を行う際の資料として提供するだけでなく、今後区民と協働して行う自然環境及び環境保全施策の基礎として利用できるようにする。そして、過去に行った調査結果と比較して生物相の変化状況を把握し、気候変動、その他の環境の変化を推察する資料とし、併せて外来生物等の実態を把握し、今後の予測及び対策の必要性についての検討資料とする。

また、本調査を区民と協働で実施することにより、区民に大田区の環境に関心を持ってもらい、生物多様性の理解促進を図ることを目的としている。

1. 3 調査地域

大田区内の公園、児童公園、緑地、河川敷、施設、ほか

(10箇所程度)

1. 4 調査対象

大田区内の代表的な公園等について、その植生や生物相についての状況調査を行う。また、今後、区民に向けて身近な自然についての観察方法等を案内する際にポイントとなる特徴的な場所や植物、生物について調査を行い取りまとめる。

1. 5 調査期間

2021（令和3）年4月より2022（令和4）年2月28日

1. 6 調査方法

調査地域内で確認された特徴的な生物・植物を記録する本調査と区民参加による協働調査（観察会）を行う。

1. 7 調査員および写真撮影

山辺功二、小野紀之

1. 8 報告書作成者

小野紀之、山辺功二

2. 調査結果

2. 1 調査対象の公園・緑地の選定について

今年度は、本調査の最終年度であり、これまでの調査結果をもとに「大田区自然ふれあいマップ 春・夏編」パンフレット制作のための追加調査と5年間の自然観察路調査の資料整理に重点を置き、パンフレットの制作と自然体験学習を支援するための解説・資料集づくり（DVDに解説・資料データを収録したもの）を行った。

また最終年度として、新たに大田区の自然の特徴として、公園・緑地以外にも街中の道路沿いの庭木が通行人の鑑賞や子どもたちの自然体験（例えば、柑橘類の生垣でアゲハチョウの幼虫を観察するなど）の場所として利用されている点にも注目して、調査を行った。

2. 2 調査対象公園・緑地

前年度に実施した公園・緑地33箇所をベースにパンフレット制作のための補足調査、写真撮影を行い、パンフレット「大田区自然ふれあいマップ 春・夏編」に掲載した。

パンフレットに掲載した公園・緑地

公園・緑地の名称（観察路を含む）	所在地
「雑木林のみち」	
田園調布せせらぎ公園	田園調布一丁目 53 番 10 号
多摩川台公園	田園調布一丁目 63 番 1 号
多摩川河川敷	東急東横線ガード付近～世田谷区境
桜坂	田園調布本町
屋敷林	鵜の木、嶺町地区
大田図書館	田園調布南 25 番 1 号
久が原公園	久が原三丁目
大型マンション群	久が原五丁目付近、山王三丁目付近
「池のみち」	

洗足池公園	南千束二丁目 14 番 5 号
「縄文のみち」	
本門寺公園	池上一丁目 11 番 1 号
「川と干潟のみち」	
大師橋干潟	本羽田公園前
穴守稲荷	
「海と埋立地のみち」	
大森ふるさとの浜辺公園	ふるさとの浜辺公園 1 番 1 号
旧呑川緑地	
ソラムナード羽田緑地	

2. 3 協働調査 <区民参加による調査普及活動>について

区民協働調査は、身近に生息する生き物を、身近に観察（調査）することを目的にしている。そのため、調査項目、方法も一般にもわかりやすく、親しみやすいものになって、多くの区民にこのような調査を知ってもらうとともに、一部調査に参加してもらうことで、関心を高める効果が期待できる。また、自然観察路に親しんでもらい、実際に歩いてもらうために制作された大田区の自然観察路などシリーズパンフレットのPRを兼ねて行われている。

今年度の協働調査（観察会）は、参加した区民を対象に身近な環境、生き物への関心を高めるための自然観察に加えて、自然体験プログラムやどんぐりストラップ、バードコールづくりなど自然素材を使った工作を導入、準備を行った。しかしながら、昨年度に続き、今年度もコロナ禍による緊急事態宣言、活動自粛が相次いだため、大田区主催の自然観察会を含めて大幅な変更を余儀なくされた。

1. アオスジアゲハ自然観察会

5月15日、コロナ禍による緊急事態宣言により中止

2. トワイライト探検隊（萩中公園）

7月31日、コロナ禍による緊急事態宣言により中止

3. トワイライト探検隊（本門寺公園）

8月7日、コロナ禍による緊急事態宣言により中止

4. 川と干潟のみち 自然観察会

9月5日、緊急事態宣言延長により中止

5. 雑木林のみち 自然観察会

10月9日、定員を20名にして実施。

「大田区自然ふれあいマップ 秋冬編」を配布

どんぐりストラップ工作を行う

6. 池のみち・洗足池 冬のバードウォッチング

2022年1月15日、オミクロン株の感染拡大により直前中止

大田区自然観察会「雑木林のみち 秋の森で自然と遊ぼう！」

日 時：2021年10月9日（土）10：00～12：10

天 候：晴

場 所：田園調布せせらぎ館多目的室、田園調布せせらぎ公園

講 師：小野紀之（地域パートナーシップ支援センター）

サポーター：岡本浩子、野沢聡子（大田区自然観察路ガイド）

実施内容：

室内学習

主催者を代表して、環境対策課係長よりあいさつと事務局からコロナ感染対策についての説明があった。

最初に小野講師から自然観察路「雑木林のみち」と大田区自然ふれあいマップ秋・冬編の内容と本日の自然体験プログラムに関連した自然についての解説があった。室内学習の最後には、本日のお土産のどんぐりのストラップ工作の説明を大田区自然観察路ガイド2名が行い、工作指導が行われた。



野外学習

田園調布せせらぎ公園を「大田区自然ふれあいマップ秋冬編」を使いながら散策し、途中、どんぐりや常緑樹、落葉樹などのちがいを説明。木肌にもふれながら五感を使った自然体験を行った。今回は「木の図鑑づくり」をメインの活動として、SDGsへの関心も高めることを目的に、自分の木を決めたら

- ①木肌の模様をクレヨンを使って用紙に写し取る
- ②その木の葉を集める
- ③木の太さをメジャーを使って測る
- ④公園の休憩スペースで、用紙に葉の葉脈を色鉛筆で写し取る。木の太さから配布資料を使ってCO₂の吸収量を調べ、記入する。最後に木の特徴などを記録して、名前をかく（樹名板の名前でも、自分で特徴から考えた名前でもよい）。

せせらぎ館に戻る途中では、植込みの土を手にとって、ミミズのふんを観察。その大切な役割なども学習した。



* なお、この自然観察会については、今年度は本調査とは別事業として連携実施されたものである。

大田区の身近な生物・植物についての区民協働調査

2021年度実施報告書

発行 2022年3月

一般社団法人 地域パートナーシップ支援センター

東京都大田区久が原3-14-22